

海外の常勤研究者になるために

~ Oak Ridge National Laboratory(ONRL)の場合、書類と面接について~

菊地帆高

提出書類の1つである CV(履歴書)は色々なサイトに書き方等の情報が載っている。大体同じであると思うが、筆者は次の6つを書いた。

1. personal information
2. education
3. professional experience
4. honors and awards, membership in professional associations
5. presentations at conference and professional meetings
6. complete lists of publications in refereed journals

1,2,3,5,6 に関しては特筆すべき点はない。4 に関して、筆者の場合はリーディング大学院のメンバーであったため、これを記載した。もう一つの提出書類である cover letter は1 ページで CV には書かなかったことを記載する。内容は志望動機や、これまで自分がやってきたことと公募ポストがいかにか合致しているかなどである。噂では cover letter の方が CV よりも重要らしい。通常では必要であると推測される推薦書であるが、今回の面接に関しては珍しく要求されなかった。(心配になったため事務へメールを書いたのだが、必要ないと言われた。) 書類審査に通ってから面接の日程が決まるまでに Visa 取得方法、給与、福利厚生の説明等をオンラインで受ける。ちなみに最近ほどのポストにも非常に多い応募が来るらしく、面接に進めるだけで評価されていると筆者は非常に嬉しく感じた。

面接はオンサイトで行われた。(ちなみに向こうの事務が飛行機のチケット、レンタカーの予約をすべてやってくれる。こちらで払ったのはガソリン代だけであった。これも面接後に小切手で日当を含めた金額で支払ってもらえる。) 私の受けた面接のスケジュールが次のとおりである。

09:00-09:45	1 on 1	Group leader
10:00-11:00 (45min+15min)	seminar	Open
11:00-12:00	Panel Interview	6人(group leaderやsection head等)
12:00-13:00	Lunch	
13:00-13:45	1 on 1	Section head
14:15-15:15	Meet with group	Group member
15:15-15:45	1 on 1	Division director
15:45-16:30	Tour	
16:30-17:30	1 on 1	Group leader
Dinner		

書類審査が通ってから1か月くらいしか猶予がなかったため、この間は自分の仕事は全て準備に当てた。と言っても、書類審査に受かると思っていなかったので相当緊張して準備は遅々として進まなかった。

個々の内容について述べる。基本的に1 on 1の面接は雑談であった。質問があればどうぞといった感じである。筆者は雑貨が好きなので部屋に変わった小物やオブジェ(例えば変わったデザインの壁時計があったりした)があった場合はそれについて話を振った。あとはアメリカでの食事について色々話した。

Seminar に関してはどこも同じだと思う。今回は Open であったため、かなりの人が聞きに来た。相当緊張したのとアクシデントがあり、正直かなり失敗したと個人的には思う。オンライン用に teams も使用したのだが、筆者の PC で teams がうまく起動しなかったため、他の人に PC を借りて行った。そのため勝手にわからず発表者ツールを開くことができず、台本を見ることができなくなった。台本を行きの飛行機で読み込んでいなかったら大変なことになっていたと思う。Lunch ではいろんな人から”nice presentation!”と言われたので少し救われた。幸い難しい質問は飛んでこなかった。

Panel interview は非常に難しかった。だが、seminar で筆者の英語力がどんなもんか interviewer に伝わったのか interview がゆっくり話してくれて非常よくしていただいた。以下に質問内容を覚えている限り書いていこうと思う。専門的なことは聞かれず、一般的な質問しかされませんが1時間と非常に長い。時々変な回答もしたと思うし、特にコラボレーションの経験については筆者の経験が乏しかったためうまく話せなかった。

1. 志望動機。
2. このポジションをどこで知ったか。
3. 他に受けているポジションについて。
4. ORNL の印象。
5. チームでどのように働くか。
6. 共同研究の経験について。
7. どのように共同実験を進めるか。
8. どのように共同実験者を探すか。
9. 新規のユーザーの獲得方法。
10. バックグラウンドの違う人とどのように接するか。
11. ルールを守らない人の扱い方。
12. このポジションで自分のしたいこと。
13. 自分の将来(5年後, 10年度)のビジョン。
14. Seminar の future works について。

あとは逆質問である。気が緩んで聞こうと思っていたことを忘れてしまったため、SNS のチームと HIFR のチームのコラボの頻度についての1つしか質問しなかった。(かなり頻繁にミーティングしているらしい。) この時に AI との付き合い方について質問しようと思

っていたのだが完全に飛んでしまった。

Meet with group では自分が所属する研究グループとの顔合わせである。これも雑談で終わるかと思いきや、Panel interview と違い専門的なことを discussion した。この面接で一番難しく楽しかった。具体的には装置のバックグラウンド、装置分解能、解析ソフトウェア、どのような装置が良いと定義するか、等について話した。

Tour は施設の案内である。ORNL には5回くらい来ているのでさらっと終わった。きわめて偶然であるが、1年半ぶりに ETH 所属の Andrey Zheludev 教授研究室の Nabi 氏と、半年ぶりに KTH 所属の Mansson 教授を見かけた。

全体を通して非常にタイトなスケジュールであったが、非常に楽しかった。飛行機会社を delta で指定したためフライトの時間が限られており、これについては失敗した。United にすれば値段は張る(delta が 25 万、united が 50 万だったので事務にいくらまで出してもらえるか聞いた方が良い)が夕方に着く便も多い。(ちなみに筆者のスケジュールを記しておく。往路は 22 時に向こうの空港に着いてレンタカーを飛ばし 0 時に guest house に着いた。復路は 6 時半に飛行機が出発であるため、4 時に guest house を出発した。)

余談であるが、ORNL に入構するためには visa のタイプが business(esta であれば WB)である必要がある。もし immigration で間違った visa を取得するとノックスビルの city hall に行かないといけなかったのだが、最近は ORNL でこれを変更できるようになったらしい。これは非常にありがたい。